

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 4月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-106667

出 願 人

Applicant(s):

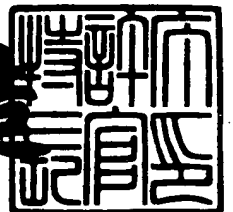
シャープ株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 3月16日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 00J00608

【提出日】 平成12年 4月 7日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 1/00
H04M 1/247

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 大井 良克

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 西尾 達也

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 長谷川 恵介

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075557

【弁理士】

【フリガナ】 サイキョウ

【氏名又は名称】 西教 圭一郎

【電話番号】 06-6268-1171

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009106

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9006560

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 メールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子メールを送受信可能で、メールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置において、

メールアドレスを入力する入力部と、メールアドレスの一部を複数、記憶する記憶部と、記憶されたメールアドレスの一部を選択する選択部とを備え、

メールアドレスの入力時に、前記入力部で入力したメールアドレスの一部と、前記選択部で前記記憶部から選択したメールアドレスの残りの一部とを組合せて、メールアドレスを形成することを特徴とするメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置。

【請求項 2】 前記複数のメールアドレスの一部は、前記記憶部に所定の順番に並べられて記憶され、前記選択部は、前記記憶部に記憶されたメールアドレスの一部を順次呼出して選択し、

前記選択部がメールアドレスの一部を呼出す順番は、任意に指定できることを特徴とする請求項 1 記載のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置。

【請求項 3】 前記記憶部は、前記複数のメールアドレスの一部を、予め定める項目ごとに分類して記憶しており、

メールアドレスの入力時には、まず、項目を選択し、次に、この項目内からメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成することを特徴とする請求項 1 または 2 記載のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インターネットなどの情報通信網との接続が可能であり、電子メールの送受信機能を備えた通信端末装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

インターネットなどの情報通信網を利用して、電子メールを送る場合、各個人

に個別に割当てられたメールアドレスを指定することによって、送信したい相手に電子メールを送ることができる。一方、電子メールを送信する手段としては、一般的にパソコンが使用されているが、近年では、携帯電話やファクシミリ装置などでも、電子メールを送受信することが可能であり、その数も増加している。携帯電話で電子メールを送信する場合には、電話番号を入力するためのダイヤルボタンを利用して、電子メールのメッセージおよび送信相手のメールアドレスを入力する。またファクシミリ装置では、上記の携帯電話と同様にダイヤルボタンを利用して、電子メールのメッセージおよび送信相手のメールアドレスを入力する。さらに、ファクシミリ装置では、原稿読取部で読取走査した原稿画像を送信相手のファクシミリ装置やパソコンに送信することができる。この電子メールを送受信することができるファクシミリ装置が、特開平 1 1 - 5 5 4 5 0 号公報に開示されている。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

図 1 1 は従来技術の通信端末装置の入力部 1 と表示部 2 とを示す図であり、図 1 2 は従来技術のメールアドレスの入力方法を説明するための図である。従来技術の携帯電話やファクシミリ装置などの通信端末装置では、電子メールの文字入力やメールアドレスの入力を行うときには、図 1 1 に示すようなダイヤルボタンなどの数の限られたものを利用しなければならない。たとえば、数字の“ 2 ”を入力するための入力ボタン 3 には、数字の“ 2 ”の他に、アルファベットの“ A 、 B 、 C ”と、平仮名のか行の“ か、き、く、け、こ ”とが割当てられている。各文字を呼出すときには、連続して入力ボタン 3 を押し、所望の文字が表示部 2 に表示されるまで文字送りする。

【 0 0 0 4 】

図 1 2 を参照してアルファベットの入力方法について説明する。図 1 2 (a) に示すように、文字“ a ”の下にカーソル 5 があり、このカーソル 5 の位置が入力状態であることを示している。所望の文字が“ b ”であるとする、さらに 1 回入力ボタン 3 を押すことによって、カーソル 5 上の文字が、図 1 2 (b) に示すように、文字“ a ”から文字“ b ”に変わる。文字を確定して、次の位置に文

字を入力するときには、別の入力ボタンを押すことによって文字の確定が行われ、カーソル 5 が次の位置に移動し、次の文字の入力待ち状態となる。しかしながら、メールアドレスの場合では、図 1 1 (c) ～ (e) に示すように、記号“@”（アットマーク）や、記号“.”（ドット）が使用されるので、その都度、記号を入力するための入力ボタン 4 を押して選択して呼出す必要があり、煩雑な操作を伴うものであった。

【 0 0 0 5 】

図 1 3 はメールアドレスの構成を示す図であり、図 1 4 は様々な種類のメールアドレスを示す図であり、図 1 5 は間違った入力をしたメールアドレスを示す図である。メールアドレスは、予め定める決まりに基づいて、その並び方が決まっており、図 1 3 および図 1 4 に示すように、ユーザを特定するためのアカウント名（ユーザ名）と、記号“@”を境にした右側の会社・組織名を示す第 2 ドメイン名と組織種別および国名を示す第 1 ドメイン名とによって構成されており、さらにその区切りを記号“.”（ドット）によって行っている。

【 0 0 0 6 】

メールアドレスは、基本的に半角の英数文字を指定する場合が多く、このとき、記号“.”（ドット）と、記号“,”（コロン）とが表示上見分けにくく、図 1 5 に示すように、間違ったメールアドレスを入力してしまうことが多い。また、携帯電話などでは、表示画面が小さく、液晶のドットが粗いため、見分けが困難であり、入力している文字が正しいか否かを判断することが困難であった。

【 0 0 0 7 】

また、特開平 1 1 - 5 5 4 5 0 号公報に開示される従来技術では、メールアドレスの全てを記憶部に記憶しており、メールを送信するときには、この記憶部に記憶されたメールアドレスの中から目的のメールアドレスを選択する。しかしながら、この従来技術では、記憶されたメールアドレスの数が増えると、複数のメールアドレスの中から、目的のメールアドレスを探し出す作業が煩雑であるという問題があった。

【 0 0 0 8 】

本発明は、上記に述べたような、メールアドレスの入力時の煩わしさを解消す

るために提案したものであり、その目的は、限られた数しか入力ボタンがなくとも、煩雑な操作を行うことなく、メールアドレスを入力することができるメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置を提供することである。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、電子メールを送受信可能で、メールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置において、

メールアドレスを入力する入力部と、メールアドレスの一部を複数、記憶する記憶部と、記憶されたメールアドレスの一部を選択する選択部とを備え、

メールアドレスの入力時に、前記入力部で入力したメールアドレスの一部と、前記選択部で前記記憶部から選択したメールアドレスの残りの一部とを組合せて、メールアドレスを形成することを特徴とするメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置である。

【 0 0 1 0 】

本発明に従えば、メールアドレスを入力するときには、入力部でメールアドレスの一部を入力し、選択部で記憶部に記憶された複数のメールアドレスの一部の中から、目的のメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成する。たとえば、各メールアドレスに共通であることが多い、メールアドレスの記号“@”よりも後に配置される会社・組織名を示す第2ドメイン名、組織種別・国名を示す第1ドメインを予め記憶部に記憶させておき、メールアドレスを入力するときには、各メールアドレスに個別であるアカウント名（ユーザ名）のみを入力部によって手入力を入力し、第1および第2ドメイン名を選択部によって記憶部から選択してメールアドレスを形成する。したがって、メールアドレスの全てを逐一、手入力するなどといった煩雑な操作を省くことができる。

【 0 0 1 1 】

また本発明は、前記複数のメールアドレスの一部は、前記記憶部に所定の順番に並べられて記憶され、前記選択部は、前記記憶部に記憶されたメールアドレスの一部を順次呼出して選択し、

前記選択部がメールアドレスの一部を呼出す順番は、任意に指定できることを

特徴とする。

【 0 0 1 2 】

本発明に従えば、記憶部は、複数のメールアドレスの一部を、所定の順番に並べて記憶する。選択部によって、記憶部に記憶されたメールアドレスの一部を選択するときには、記憶部からメールアドレスの一部が1つずつ順次呼出されて表示部に表示され、ユーザはこの表示部に表示されたメールアドレスの一部を参照しながら、目的のメールアドレスの一部が表示されるまで先送りする。このとき、メールアドレスの一部が呼出される順番は、任意に指定することが可能であり、たとえば、ユーザがよく使用する順番などに並び換えることができる。したがって、ユーザが所望のメールアドレスの一部が早く呼出されることになり、ユーザがメールアドレスを形成するまでの時間が短くなる。これによって、メールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【 0 0 1 3 】

また本発明は、前記記憶部は、前記複数のメールアドレスの一部を、予め定める項目ごとに分類して記憶しており、

メールアドレスの入力時には、まず、項目を選択し、次に、この項目内からメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成することを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

本発明に従えば、記憶部は、複数のメールアドレスの一部を、予め定める項目毎に分類して記憶している。たとえば、記号“@”以降の会社・組織名を示す第2ドメイン名と組織種別・国名を示す第1ドメイン名とを第1項目としてまとめて記憶し、また、組織種別・国名を示す第1ドメイン名のみを第2項目としてまとめて記憶しておく。メールアドレスを入力するときには、選択部によって、まず目的の項目を選択する。次に、この選択された項目の中から、目的のメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成する。このように、記憶されたメールアドレスの一部が、各項目ごとに分類されているので、複数記憶されたメールアドレスの一部を目的のメールアドレスの一部にまで絞り込むことが容易となる。したがって、記憶部から目的のメールアドレスの一部が、早く呼出されることになり、ユーザがメールアドレスを形成するまでの時間が短くなる。これによ

って、メールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【 0 0 1 5 】

【発明の実施の形態】

図1は本発明の実施の一形態のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置の一例であるファクシミリ装置11の斜視図であり、図2はファクシミリ装置11の操作パネル部25を詳細に示す図である。このファクシミリ装置11は、インターネットなどの情報通信網との接続が可能となり、電子メールの送受信をすることが可能である。ファクシミリ装置11は、メールアドレスを入力するための入力部12と、メールアドレスの一部を記憶する記憶部（図示せず）と、記憶部に記憶されたメールアドレスの一部を順次、呼出して選択する選択部14と、メールアドレスを表示する表示部13とを備える。

【 0 0 1 6 】

図1に示すように、入力部12として、通常の電話やファクシミリ装置に備えられているダイヤルボタンをそのまま使用することができる。つまり、入力部12は、対応する数字、アルファベット、平仮名文字および記号が、それぞれ個別に割当てられる9つの入力ボタン15と、入力ボタン15を押して、入力した平仮名文字を、片仮名文字や漢字に変換するための変換ボタン16と、変換ボタン16を押して変換した片仮名文字や漢字を確定するための確定ボタン17と、各入力ボタン15を押したときに入力される文字を数字、英字または平仮名に切換えるための文字切換ボタン18とを含んで構成される。

【 0 0 1 7 】

図3は、記憶部に記憶されているメールアドレスの一部を示す図である。図3に示すように記憶部はメールアドレスの一部として、組織種別・国名を示す第1ドメイン名を複数記憶している。この各第1ドメイン名には、予め定める優先順位が付与されており、優先順位が1位のものから順番に並べられている。この優先順位は、ユーザが任意に決定することができ、たとえば使用頻度の高いものから順番に並べ換えたり、アルファベット順に並べ換えたりすることができる。また、使用頻度に基づいて、使用頻度の高いものから自動的に順番に並べ換えることもできる。

【0018】

表示部13は、たとえば液晶表示画面であって、この表示部13に入力部12によって入力された文字および記憶部から呼出された第1ドメイン名が表示される。

【0019】

選択部14は、メールアドレスに必ず使用される記号“@”を入力するためのアットマークボタン19と、表示部13に表示されたカーソル20を次の位置に送るための送りボタン22と、カーソル20を前の位置に戻すための戻しボタン21と、カーソル20上の文字を削除するための削除ボタン23とを含む。

【0020】

次に図4を参照して、メールアドレスの入力方法について説明する。図4は、メールアドレスの入力方法を説明するための図である。なお、本実施形態では、電子メールを送信する相手のメールアドレスを、たとえば、“a b c @ f a x m a i l . c o m”とする。このメールアドレスは、アカウント名（ユーザ名）である文字列“a b c”と、記号“@”と、会社・組織名を示す第2ドメイン名である文字列“f a x m a i l”と、組織種別・国名を示す第1ドメイン名である文字列“. c o m”によって構成される。

【0021】

まず、入力部12の入力ボタン15を押して確定ボタン17を押す。すると、文字“a”が確定され、カーソル20が次の位置に移動する。次の文字“b”を入力するときには、再び入力ボタン15を押す。すると、図4（a）に示すようにカーソル20上に文字“a”が表示され、さらに入力ボタン15を押すと、図4（b）に示すように、カーソル20上に文字“b”が表示される。上記の操作を繰返すことによって、アカウント名“a b c”が入力される。

【0022】

アカウント名“a b c”を入力した後、アットマークボタン19を押すと、図4（c）に示すように、アカウント名“a b c”の後に、記号“@”が挿入される。その後、アカウント名“a b c”を入力したときと同様にして、図4（d）に示すように、第2ドメイン名“f a x m a i l”を入力する。

【 0 0 2 3 】

第2ドメイン名“ f a x m a i l ”の後に、第1ドメイン名“ . c o m ”を挿入するときには、まず、アットマークボタン19を2回連続して押す。すると、図4（e）に示すように、記憶部に記憶された複数の第1ドメイン名の中から、優先順位が1位の第1ドメイン名“ . c o m ”が表示される。本実施形態では、目的の第1ドメイン名は、優先順位が1位の“ . c o m ”であるので、表示部13に第1ドメイン名“ . c o m ”が表示された状態で確定ボタン17を押して確定する。すると、第2ドメイン名“ f a x m a i l ”の次に、目的の第1ドメイン名“ . c o m ”が挿入されてメールアドレスが形成される。以上のように、本発明のファクシミリ装置11では、メールアドレスの全てを、逐一、手入力する必要がないのでメールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【 0 0 2 4 】

次に、図5を参照して、第1ドメイン名の選択方法について説明する。図5は、複数の第1ドメイン名の中から、目的の第1ドメイン名を選択する方法を説明するための図である。前述したように、アットマークボタン19を2回連続して押すと、優先順位が1位の第1ドメイン名“ . c o m ”が記憶部から呼出されて表示部13に表示される。この状態が、図5（a）に示される。次に送りボタン22を1回押すと、図5（b）に示すように、優先順位が第2位の第1ドメイン名“ . c o . j p ”が記憶部から呼出されて表示され、さらに送りボタン22を1回押すと、優先順位が3位の第1ドメイン名“ . n e . j p ”が呼出されて表示される。このように、送りボタン22を順次押すことによって、優先順位が下位の第1ドメイン名が、順に記憶部から呼出されて表示部13に表示される。このように、優先順位の高いものから、順次呼出す構成であるので、目的が第1ドメイン名が早く呼び出されることになり、メールアドレスを完成するまでの時間が短くなる。これによって、メールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【 0 0 2 5 】

また、表示が行き過ぎてしまった場合には、戻しボタン21を押すことによって、優先順位が1つ上の第1ドメイン名を呼び出して表示することができる。記憶部に記憶されている第1ドメイン名を、全て表示し終わると、優先順位が最下

位の何も表示されない状態となり、ユーザは記憶している第1ドメイン名が全て表示されてしまったことを確認することができる。また、この表示なしの状態、さらに送りボタン22を押すと、再び優先順位が1位の第1ドメイン".com"が呼出されて表示される。

【0026】

また、記憶部は第2ドメイン名およびアカウント名をも記憶することができる。このように、第2ドメイン名およびアカウント名をも記憶させておくと、ある特定の人物に電子メールを送ることが多い場合などでは、特に便利である。このとき、第1ドメイン名のみを含むメールアドレスの一部と、第1ドメイン名および第2ドメイン名を含むメールアドレスの一部と、第1ドメイン名、第2ドメイン名およびアカウント名を含むメールアドレスとが混在して記憶されていると、まぎらわしく、さらに目的のものを探し出すことが困難である。したがって、予め定める項目毎に分類してまとめて記憶しておくことが好ましい。

【0027】

図6は予め定める項目ごとに分類して、メールアドレスの一部を記憶した状態を示す図であり、図7は各項目を切替える方法を説明するための図である。図6に示すように、本実施形態ではメールアドレスの一部を、第1ドメイン名のみを含む第1項目と、第1ドメイン名および第2ドメイン名を含む第2項目と、アカウント名、第1ドメイン名および第2ドメイン名を含む第3項目とに分類して記憶している。また、前述と同様に、各第1～第3項目ごとに優先順位が付与されており、優先順位の1位のものから順番に並べられている。なお、この優先順位も前述と同様に、ユーザが任意に決定することができる。

【0028】

また、選択部14は、上記第1～第3項目をそれぞれ切替えるためのシフトボタン24を備え、さらにアットマークボタン19は、第1項目に切替えるための機能、戻しボタン21には第2項目に切替えるための機能、送りボタン22には第3項目に切替えるための機能とが割り当てられている。シフトボタン24を押しながら、アットマークボタン19を押すと、第1項目に切換えられて、第1ドメイン名のみが呼び出されて表示される。シフトボタン24を押しながら戻しボ

タン 2 1 を押すと、第 2 項目に切換えられて、図 7 に示すように、第 1 ドメイン名と第 2 ドメイン名とが呼出されて表示される。シフトボタン 2 4 を押しながら、送りボタン 2 2 を押すと、アカウント名と第 1 ドメイン名と第 2 ドメイン名とを含む完全なメールアドレスが呼出されて表示される。各第 1 ～第 3 項目の中から、目的のものを選択するときには、前述と同様に、送りボタン 2 2 を押して、順次記憶部から呼出して表示させる。このように、各項目ごとにメールアドレスの一部を分類して記憶させておくことによって、複数のメールアドレスの一部の中から、目的のメールアドレスの一部を探し出すことが容易となり、メールアドレスを形成するまでの時間が短くなる。これによって、メールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【 0 0 2 9 】

また、各メールアドレスの一部を分類する方法は、上記の方法に限定するものではなく、ユーザの所望の項目に分類することができる。たとえば、ユーザがビジネス用とプライベート用とを使い分けたいときには、ビジネス用の第 1 項目と、プライベート用の第 2 項目とに分類して記憶させることができる。

【 0 0 3 0 】

図 8 は、本実施の形態のファクシミリ装置 1 1 の電子メール送信に関するフローチャートである。ステップ s 1 で、ファクシミリ装置 1 1 を電子メールを送信するためのメール送信モードに切換えたと、ステップ s 2 に進み、前述したように、入力部 1 2 によってメールアドレスの一部を手入力する。なお、第 3 項目から完全なメールアドレスを呼び出すときには、このステップ s 2 を省略することができる。その後、ステップ s 3 に進み、前述したように、選択部 1 3 によって、メールアドレスの残りの一部を記憶部から呼出して入力し、ステップ s 4 に進む。ステップ s 4 で、表示部 1 3 に表示されたメールアドレスを確認すると、ステップ s 5 に進み、電子メールを送信するか否かを決定する。電子メールを送信することを決定すると、ステップ s 6 に進み、電子メールを送信する。ステップ s 5 で電子メールを送信しないことを決定すると、ステップ s 2 に戻る。

【 0 0 3 1 】

図 9 は本発明の他の実施の形態のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末

装置の一例であるファクシミリ装置 3 1 の斜視図であり、図 1 0 はファクシミリ装置 3 1 の操作パネル部 3 2 を詳細に示す図である。本実施形態のファクシミリ装置 3 1 の特徴は、ダイヤルボタン 3 4 に文字入力機能を持たせずに、別途、英字を入力することができる文字入力部 3 3 を設けたことである。したがって、本実施形態のファクシミリ装置 3 1 では、パソコンのキーボードのように、アルファベットを入力するための文字入力ボタンを有するので、文字の入力が容易となる利点を有する。

【 0 0 3 2 】

以上のように、本発明のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置として、ファクシミリ装置を一例として説明してきたが、この通信端末装置は、携帯電話で実現することもできる。

【 0 0 3 3 】

【発明の効果】

本発明によれば、メールアドレスを入力するときには、表示部を参照しながら、まず入力部でメールアドレスの一部を入力し、次に選択部で記憶部から目的のメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成する。したがって、メールアドレスの全てを逐一、手入力することがなく、煩雑さが解消する。

【 0 0 3 4 】

また本発明によれば、記憶部は、複数のメールアドレスの一部を、所定の順番に並べて記憶する。選択部によって、記憶部からメールアドレスの一部を選択するときには、記憶部からメールアドレスの一部が、1 つずつ順次呼出されて表示部に表示され、この表示部に表示されたメールアドレスの一部を参照しながら、目的のメールアドレスの一部を決定する。このメールアドレスの一部が呼び出される順番は、ユーザが任意に指定することができるので、ユーザの所望のメールアドレスの一部を、早く呼出すことができ、メールアドレスを形成するまでの時間が短くなる。

【 0 0 3 5 】

また本発明によれば、記憶部に記憶されたメールアドレスの一部は、予め定める項目毎に分類されているので、目的のメールアドレスの一部を探し出すことが

容易である。したがって記憶部から目的のメールアドレスの一部が早く呼出されることになり、ユーザがメールアドレスを形成するまでの時間が短くなる。これによって、メールアドレスの入力時の煩雑さが解消する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の一形態のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置の一例であるファクシミリ装置 1 1 の斜視図である。

【図 2】

ファクシミリ装置 1 1 の操作パネル部 2 5 を詳細に示す図である。

【図 3】

記憶部に記憶されているメールアドレスの一部を示す図である。

【図 4】

メールアドレスの入力方法を説明するための図である。

【図 5】

目的の第 1 ドメイン名を選択する方法を説明するための図である。

【図 6】

予め定める項目毎に、分類してメールアドレスの一部を記憶した状態を示す図である。

【図 7】

各項目を切換える方法を説明するための図である。

【図 8】

ファクシミリ装置 1 1 の電子メール送信に関するフローチャートである。

【図 9】

本発明の他の実施の形態のメールアドレスの入力機能を備えた通信端末装置の一例であるファクシミリ装置 3 1 の斜視図である。

【図 1 0】

ファクシミリ装置 3 1 の操作パネル部 3 2 を詳細に示す図である。

【図 1 1】

従来技術の通信端末装置の入力部 1 と表示部 2 とを示す図である。

【図 1 2】

従来技術のメールアドレスの入力方法を説明するための図である。

【図 1 3】

メールアドレスの構成を示すための図である。

【図 1 4】

種々の形態のメールアドレスを示す図である。

【図 1 5】

間違った入力をしたメールアドレスを示す図である。

【符号の説明】

1 1, 3 1 ファクシミリ装置

1, 1 2 入力部

2, 1 3 表示部

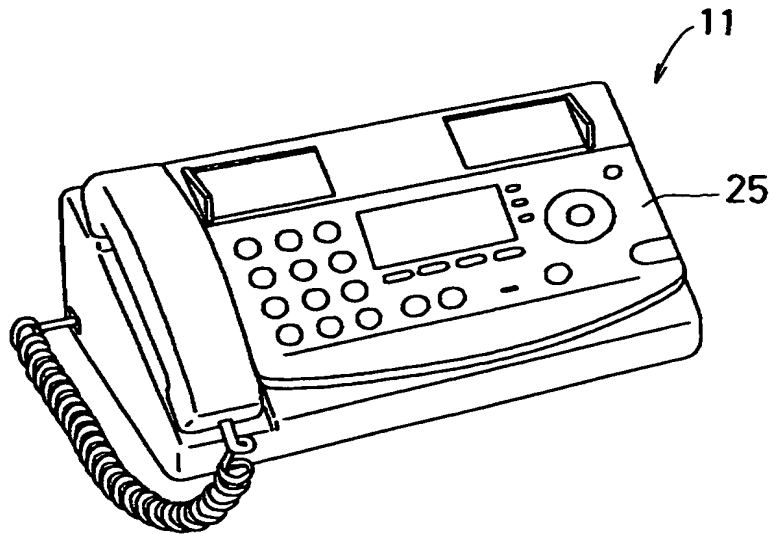
5, 2 0 カーソル

1 4 選択部

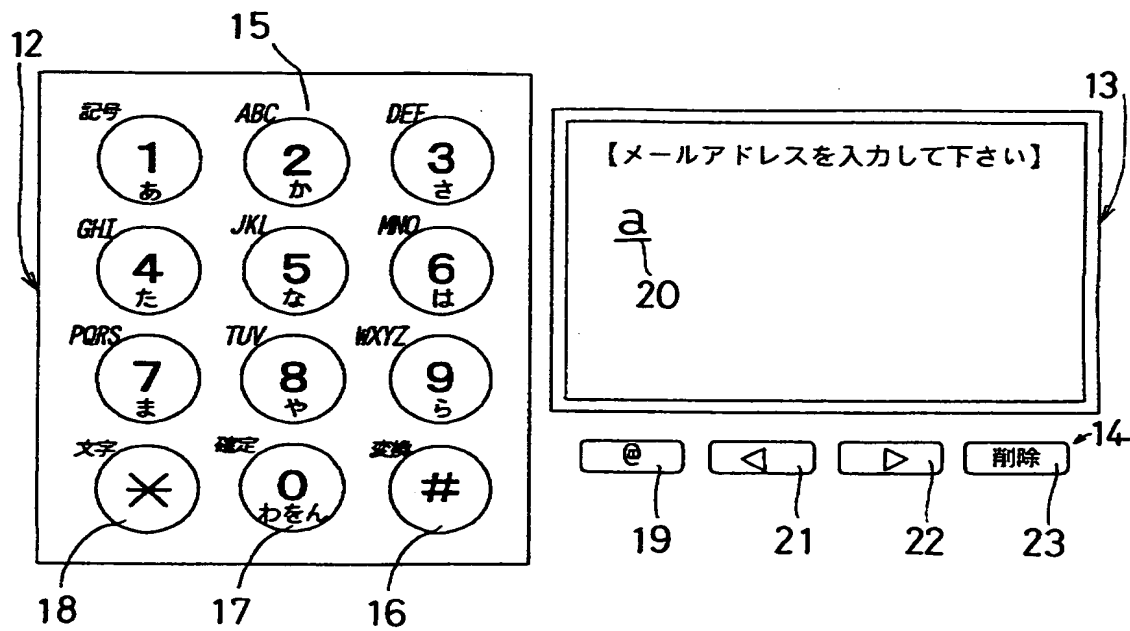
3 3 文字入力部

【書類名】 図面

【図 1】



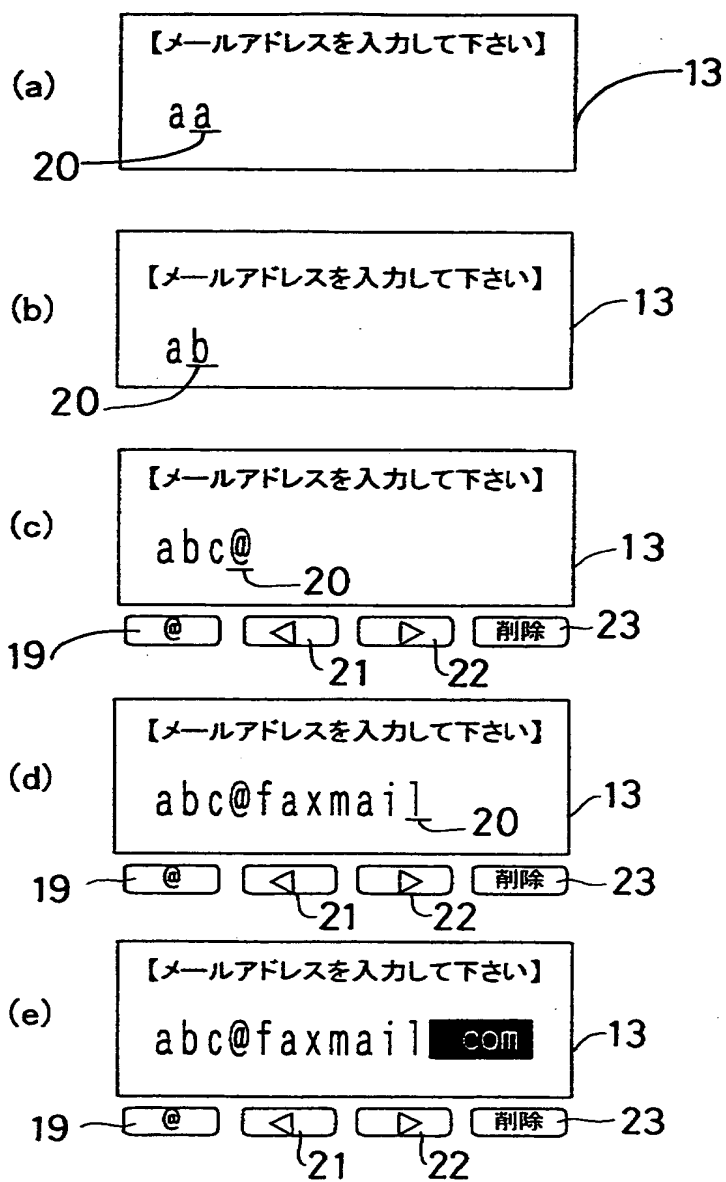
【図 2】



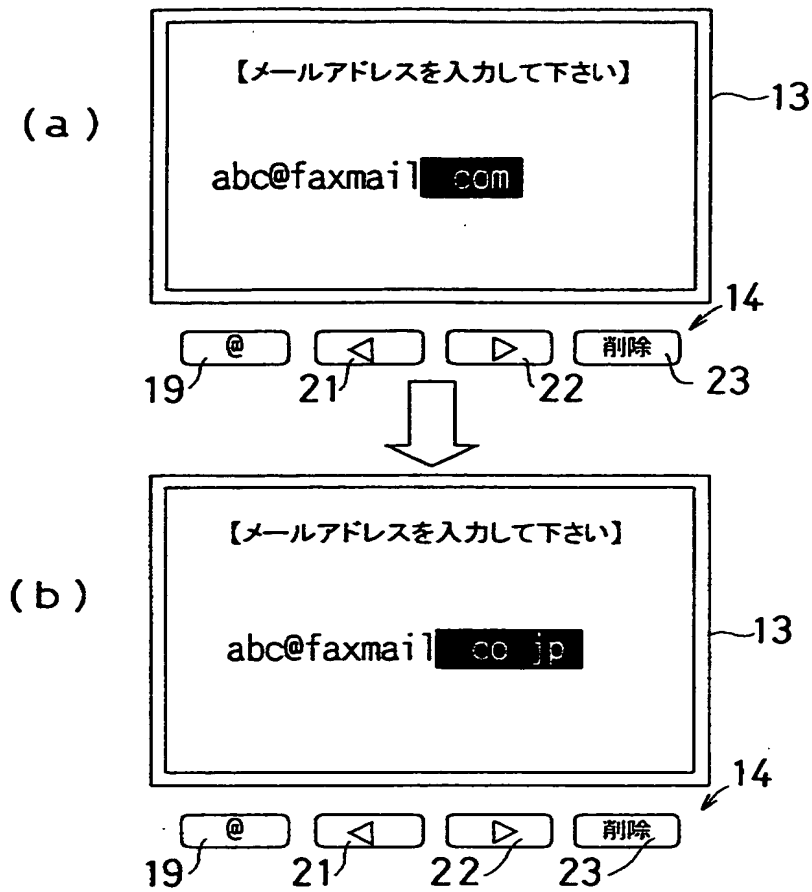
【図 3】

優先順位	表 示
1	.com
2	.co.jp
3	.ne.jp
4	.or.jp
5	表示なし

【図 4】



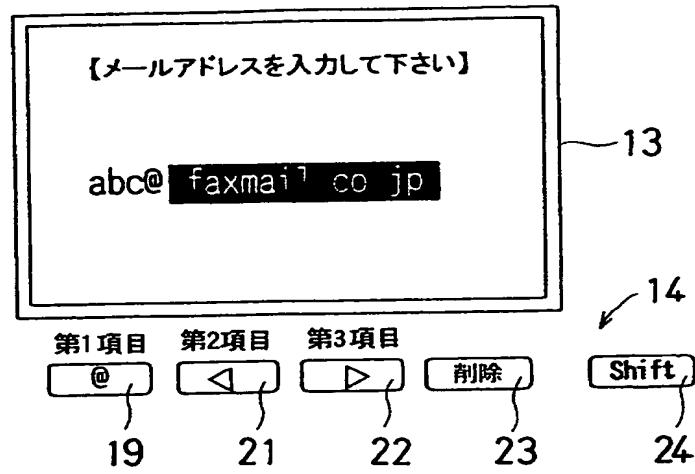
【図 5】



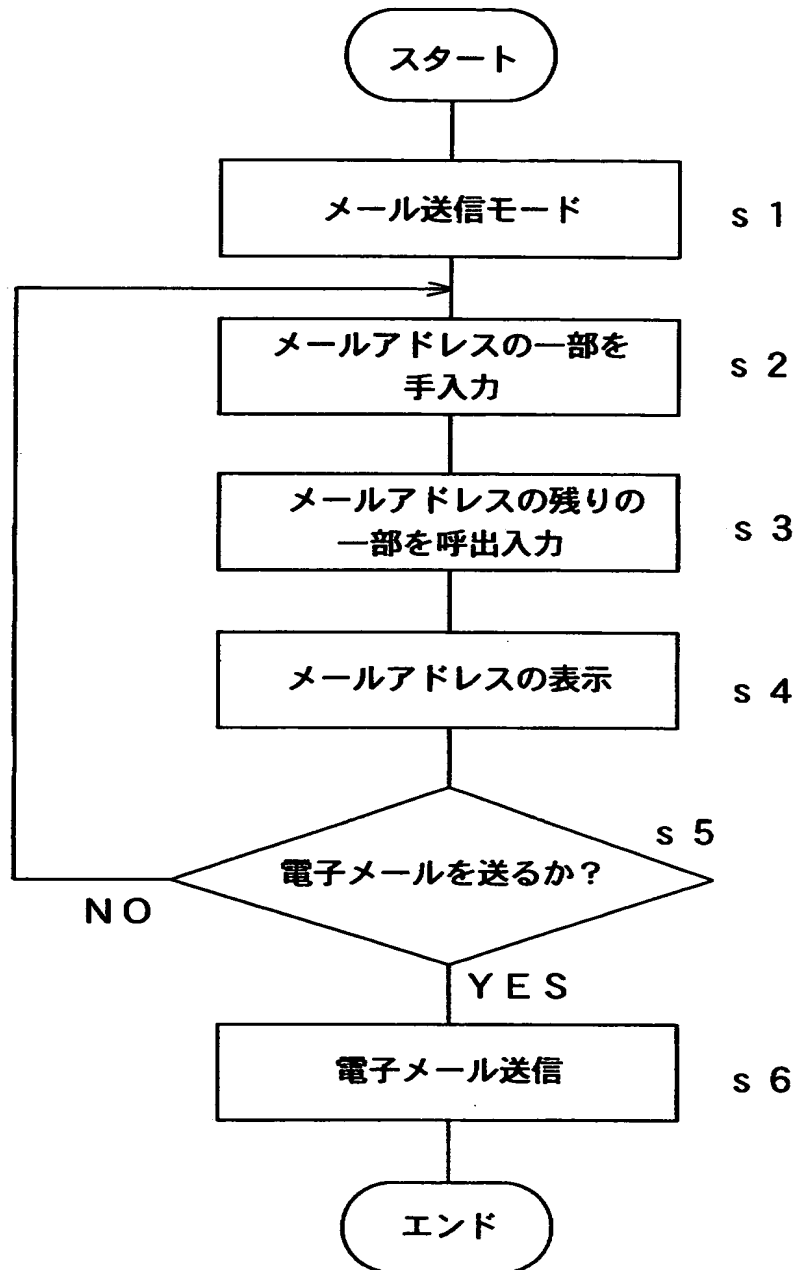
【図 6】

第1項目		第2項目		第3項目	
優先順位	表 示	優先順位	表 示	優先順位	表 示
1	.com	1	faxmail.co.jp	1	abc@faxmail.co.jp
2	.co.jp	2	open.ne.jp	2	info@open.ne.jp
3	.ne.jp	3	pj1.compa.co.jp	3	rent@pj1.compa.co.jp
4	.or.jp	4	nikoniko.or.jp	4	staff@nikoniko.or.jp
5	表示なし	5	表示なし	5	表示なし

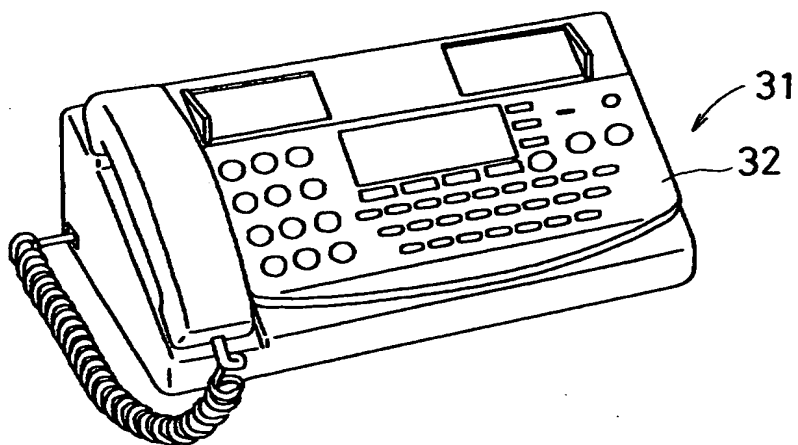
【図 7】



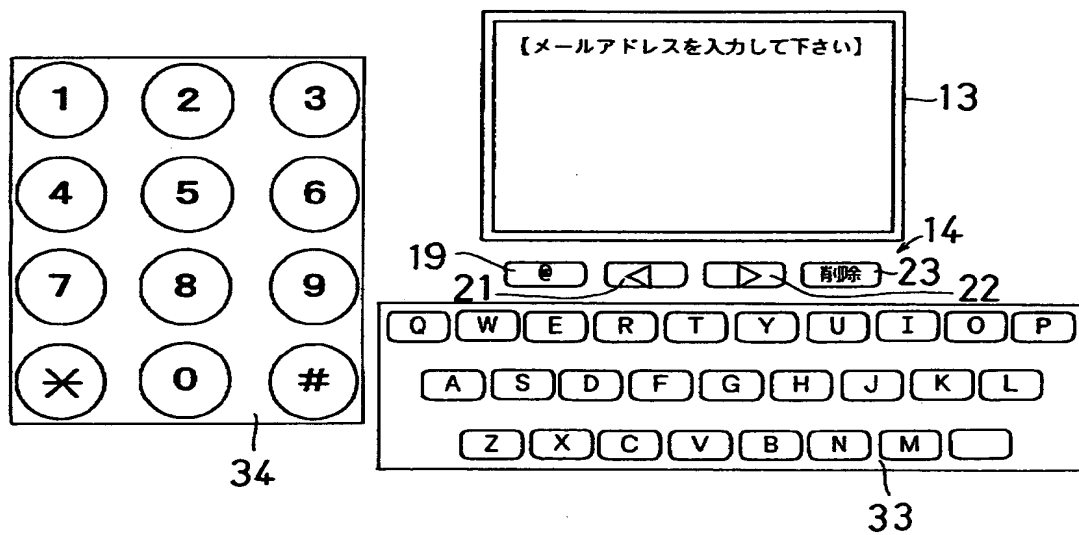
【図 8】



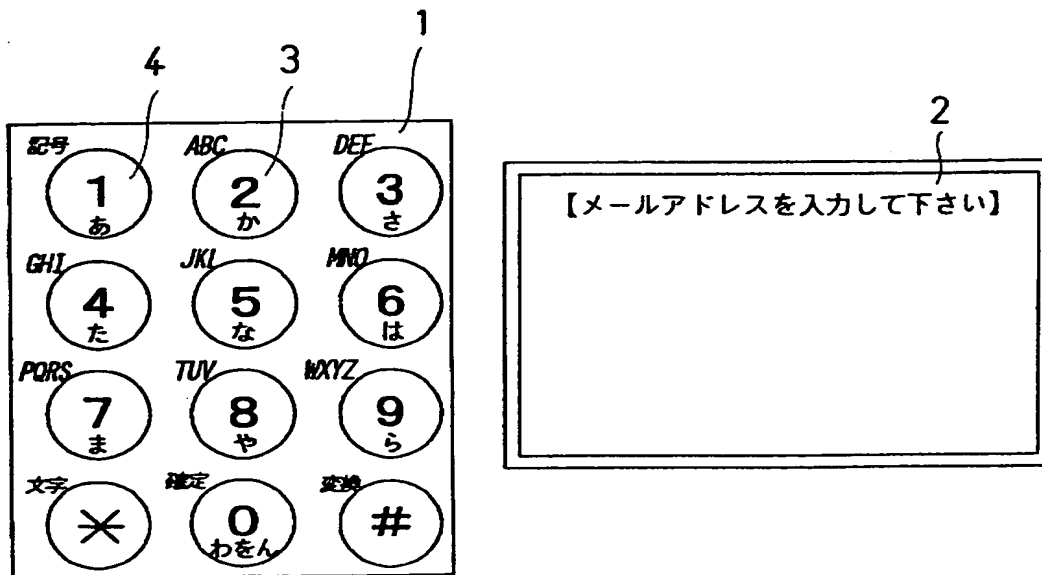
【図9】



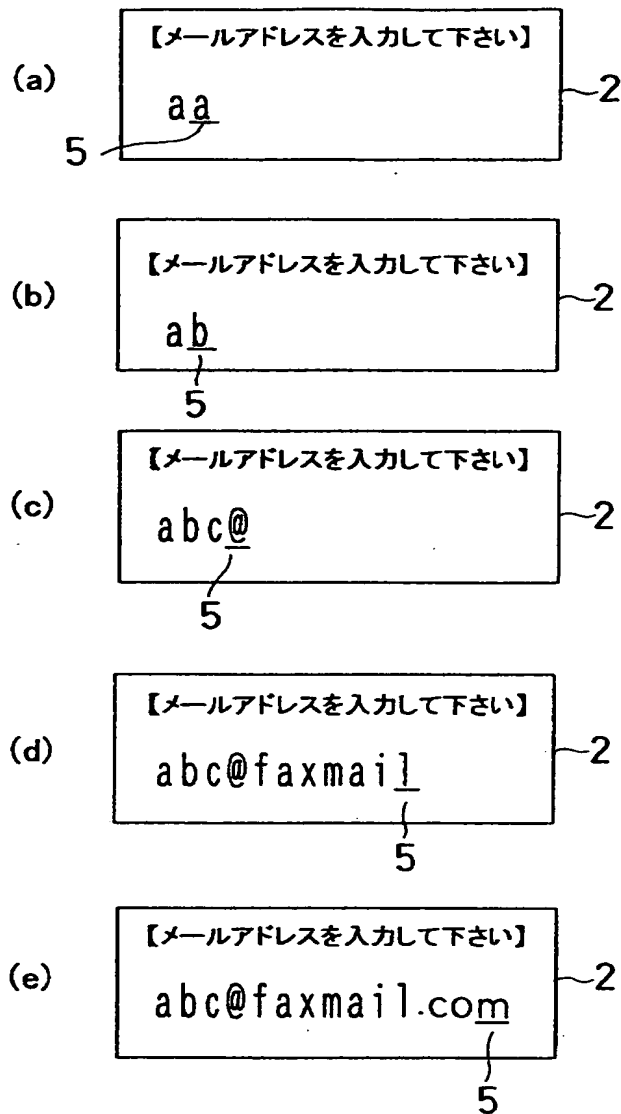
【図10】



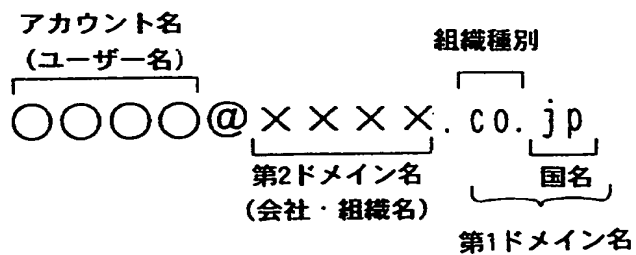
【図 1 1】



【図 12】



【図 13】



【図14】

○○○○@××××.com
○○○○@××××.co.jp
○○○○@××××.ne.jp
○○○○@××××.or.jp

【図15】

○○○○@××××,co.jp

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 メールアドレスの入力時の煩雑さを解消する。

【解決手段】 メールアドレスを入力するときには、表示部 1 3 を参照しながら、まず、入力部 1 2 で、メールアドレスの一部を入力し、次に選択部 1 4 で、記憶部に記憶された複数のメールアドレスの一部の中から、目的のメールアドレスの一部を選択してメールアドレスを形成する。したがって、メールアドレスの全てを、入力部 1 2 で逐一、手入力する必要がないので、煩雑な操作を省くことができる。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
氏 名 シャープ株式会社